

# 博物館NEWS

## 博物館ニュース



### 瀬戸内海・西海航路図屏風

(大阪城天守閣蔵)

大坂から瀬戸内海沿岸、九州北部の航路を描いた屏風です。海には波や船が、陸には城や地名などが見られます。陸地の表現や注記に金を豊富に使用しており、豪華なものです。

近世には、瀬戸内海、四国、九州の航路を描いた屏風が多数制作されていますが、この

屏風はそのひとつです。かつては豊臣秀吉が使用した「太閤船屏風」といわれていましたが、今日では17世紀前半の成立と推定されています。

企画展「海はむすぶ一人とモノの交流史」で展示します。  
(長谷川)

## 守住貫魚についての資料

大橋 俊雄

当館に最近はいった、<sup>もりずみつらな</sup>守住貫魚に関する資料を紹介します。貫魚（1809-1892）は住吉派の絵師で、江戸後期に徳島藩に抱えられ、明治時代には内国絵画共進会で受賞し、<sup>ふんぼん</sup>帝室技芸員に選ばれました。当資料は模写、画稿、粉本など39件で、内訳は別表のとおりです。体裁は、未表装の巻物が大半で、1枚ものや冊子も若干ふくまれています。

これらの資料は、出所がはっきりしませんので、関係のない資料があとから混じった可能性もあり、注意が必要です。貫魚の署名や印があったり、彼の画風をしめすものが多いのですが、なかには署名などがなく筆者がはっきりしないもの、署名や年記から無関係と思われるものも含まれています。どの資料が貫魚に結びつくかは、今後さらに調べなければなりません。

こうした点を考慮しながら、注目される資料を二、三採り上げてみましょう。まず『関ヶ原合戦 下』<sup>かのうみちのぶ</sup>1巻は、狩野典信の描いた関ヶ原合戦絵巻を、紙の地に墨で簡略に写した巻物です（図1）。巻末に下のような奥書があります（図2）。

榮川院法印典信圖

天保四巳十月廿九日夜

守住輝美寫之花押

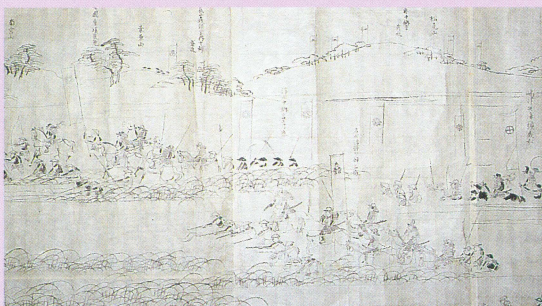


図1 『関ヶ原合戦 下』

貫魚は、はじめ徳島藩の御用絵師渡辺広輝に学び、輝美と名のります。そして天保3～4年（1832～33）ごろに江戸の住吉<sup>ひらさだ</sup>広定に入門したとされています。『関ヶ原合戦 下』は、住吉家に入門する前後の時期に写されています。

興味深いのは、貫魚がかけ出しのころに狩野派の作品を写していることです。御用絵師だったときの彼は、しばしば江戸狩野を思わせる作品を描いていますので、狩野派を学んでいたのは間違いありません。しかし彼の伝記類は、その点になぜか一言もふれていません。彼は住吉派ですので、ちがう流派に学んだことを伏せておきたかったと思われる。

貫魚がなぜ、どのようにして狩野派を学んだのかまだ明らかにされていません。この問題は、住吉派をとりまく当時の状況や、同派と狩野派の関係、藩絵師のあり方などと関連しますので、とても大切です。

次に、『草花写生』12巻を見てみましょう。これは12ヶ月を1巻ずつに割りあて、1巻につき2、3種類の草花を描いた巻物です（図3）。どの巻も、はじめの方に草花が少し描かれ、うしろの方はほとんど余白ですので、時間をかけて描きついでいくつもりだったのでしょう（12月のように、まったく白紙の巻

もあります）。草花は、一度写生してからていねいに清書しておいています。細い墨線がかたちをとり、淡彩をほどこすものとほどこさないものがあります。

『草花写生』には署名や印がありませんし、線や色づかいは後で述べるように普通の貫魚画とは大きく違います。しかし

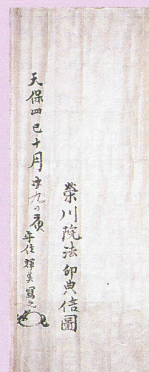


図2 同奥書

「弘化丁未」「嘉永二年」の年記や、採集地の注記などがあり、その筆跡からやはり貫魚が描いたと考えられます。

貫魚がたびたび風景を写生したことはよく知られています。しかしさまざまな草花を、葉の一枚一枚から根のつき具合までていねいに写していたことは知られていません。御用絵師をしていたころの貫魚は、やや硬質の描線をつかって作品を描き、どこかきまじめな印象がありました。しかしこれらの草花は、ずっと自由な線であらわされ、色彩も清新です。貫魚の別の一面がうかがえる資料といえましょう。

以上のほかに当資料には、師である渡辺広輝が描いた仙洞院修学院行幸絵巻（個人蔵）

の写し、阿波国文庫にあった鶴ヶ岡八幡宮宝物図巻の写し、国瑞彦験記の下絵など、注目される資料がありますが、別の機会に紹介したいと思います。（学芸員：美術工芸担当）



図3 『草花写生』より

## 守住貫魚関係資料内訳

1 時代不同歌合 3巻	紙本白描	21 群禽図* 1巻	紙本墨画
2 関ヶ原合戦巻 1巻	紙本淡彩	22 廃物武器燈籠 1巻	紙本着色
3 関ヶ原合戦 下 1巻	紙本墨画	23 大和山水 1巻	紙本着色ほか
4 笈之図麻植郡山崎村千手院蔵 1巻	紙本淡彩	24 雲谷山水拔写 1巻	紙本淡彩
5 十二支 1巻	紙本淡彩	25 画譜縮図 1冊	紙本墨画ほか
6 修学院御幸巻巻三之内拔写仙洞帝文政七年 甲申十月 1巻	紙本白描	26 神酒御頂戴* 1巻	紙本白描
7 御遷幸安政二年十二月日 2巻	紙本白描	27 国瑞彦験記御家大阪冬夏両御陳 1巻	紙本淡彩
8 女官服五十九 2巻	紙本着色	28 草花写生 12巻	紙本淡彩ほか
9 銭形屏風写 1巻	紙本着色	29 短刀写 1巻	紙本着色
10 蝦夷珍貝 1巻	紙本着色	30 太刀刃物 1巻	紙本着色ほか
11 舞扇之画 1巻	紙本着色	31 公家琴棋書画図* 1巻	紙本淡彩
12 三十六歌仙図* 1巻	紙本墨画	32 鞍障泥図* 1巻	紙本淡彩
13 職人歌合之絵 3巻	紙本白描	33 轡図* 1巻	紙本淡彩
14 百馬 全 1巻	紙本墨画	34 和泉式部・殷富門院図* 3枚	紙本着色ほか
15 百鶴 1巻	紙本着色	35 小禽図* 2枚	紙本着色
16 狂獅子 全 1巻	紙本淡彩	36 楼門図* 1巻	紙本着色
17 鶴岡八幡宮宝物 1巻	紙本淡彩	37 石燈籠図* 1枚	紙本墨画
18 鶴岡八幡宮神宝 政子前奉納官服 1巻	紙本着色	38 福富草紙* 1巻	紙本淡彩
19 雅楽器図* 1巻	紙本着色	39 福富草紙 2巻	紙本淡彩
20 群禽図* 1巻	紙本墨画		

\*は当館でつけた資料名です。

# 鳴門市 龍宮の磯

磯は、いろいろな色、形をした生きものがたくさんいる楽しい所です（図1～4）。徳島県には観察に適した磯がいくつかありますが、おすすめは鳴門市の龍宮の磯です（図5）。場所がわかりやすく、近くにクルマをとめることができます（図6）。ここからは、今までに約100種の生きものを確認しています。

興味のある方はぜひ磯にいらしてみてください。生きものを自分で探して、手にとって観察することは得難いことです。私は採集を始めると、日頃はどこかに隠れていた狩猟本能がでてきて、自然というものに近づいた気持ちになります。

## 観察のポイント

- 1) 大潮か中潮の干潮に合わせていく。生きものは潮間帯といわれる、潮が引いた時に海面上にあわられる部分にたくさんいますから、よく潮の引く大潮か中潮の日が観察に適しています。釣具屋さんから潮汐表を買ってくると便利です。潮汐表には潮高という項目があって、その値が低いほど潮はよく引きます。観察は干潮の1～2時間前から始めて、干潮になったらやめるようにすれば、知らぬまに潮が満ちてくるという心配もありません。
- 2) 石の裏や下をみる。多くの動物は石の裏側や石の下にいますから、石をひっくり返してみることがポイントです。なお、石をひっくり返すことは、生きものの生活をじゃましていることにもなりますから、観察が終わったら、ひっくり返した石はもとにもどしておきましょう。



図1 アメフラシ。体長は30cmをこえます。一番人気です。一年中、磯にいるわけではなく、5～6月に限られます。



図2 クロシタナシウミウシ。



図3 アオウミウシ（もっと青いのがいます）。 図6 龍宮の磯への地図。

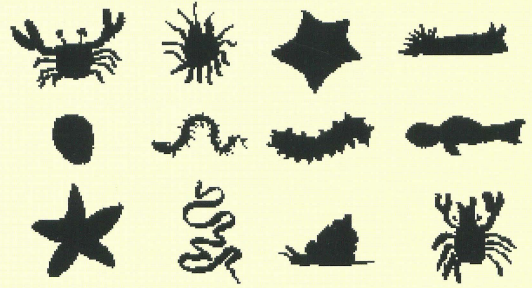


図4 代表的な生きものの影絵。上段左より、イソガニ、イソギンチャク、イトマキヒトデ、ウミウシ。中段左より、カサガイ、ゴカイ、ナマコ、ハゼ。下段左より、ヒトデ、ヒモムシ、マキガイ、モガニ。



図5 龍宮の磯、全景。

## 道具

軍手、長ぐつかぬれてもいい運動靴（サンダルは危険です）、ぼうし、小型の水そうかバケツ（採集した生きものを一時的にいれます；水そうは横や下からも生きものを観察できます）、ピンセット（あれば便利です；できれば20cm以上の大型）。

## 注意点

- 1) 岩の上には海藻がはえていて滑りやすいので、滑って走らないでください。すべりにくい靴をはいていくのもいいです。
- 2) 海の生きものを飼育するには、やや専門的な道具や知識が必要ですから、採集した生きものはできるだけ逃がしてください。

（動物担当 田辺 力）



# 海はむすぶ—人とモノの交流史—

阿波は瀬戸内海と太平洋に面しており、古くから、少なからず海の恵みを受けてくらしが成り立ってきた地域です。阿波に接する海は交通路でもあり、日本列島内外との接点となっていました。海を通じてさまざまな人や物資が行き交っていたのです。

このたび、待望の本州・四国連絡橋神戸—鳴門ルート<sup>①</sup>の全通にともない、徳島と近畿圏はじめ各方面との海を越えた交流が活発になることが予想されます。

大きな変化の時代を迎えた今、改めて海を通じた人や物資の交流の様相を探り、歴史のなかでの〈海〉の役割を考えなおしてみたいと思います。

## ●主な展示資料

長原高廻り2号墳出土埴輪(重要文化財) 文化庁  
北野天神縁起(重要文化財) 津田天満神社  
海上信仰資料(一部は重要有形民俗文化財)

瀬戸内海歴史民俗資料館

阿波志(徳島県指定文化財) 後藤雅章氏  
全国名勝絵巻(徳島県指定文化財) 楠育治氏  
穴喰町大山神社旧蔵朝鮮鐘 東京国立博物館  
海東諸国記 東京大学史料編纂所  
瀬戸内海・西海航路図屏風 大阪城天守閣  
西海航路図屏風 堺市博物館  
守住貫魚筆鳴門真景図 徳島市立徳島城博物館  
紀淡海峡採集中国産陶磁器 淡嶋神社  
水の子岩海底遺跡出土遺物 岡山県立博物館  
大里八幡神社関船 海部町東町町内会



図1 北野天神縁起

- 会期 1998年4月21日(火)～5月24日(日)  
※休館日 4.27(月)、5.6(水)、5.11・18(月)
- 会場 当館企画展示室・21世紀館多目的活動室
- 観覧料 一般 200円／高校・大学生 100円／小・中学生 50円(20名以上の団体は2割引)

## 関連行事

### (1) 講演会

日時 5月10日(日) 13:30～15:00

会場 21世紀館イベントホール(入場無料)

テーマ 歴史における海と交流

講師 網野善彦氏(前神奈川大学特任教授)

### (2) 展示解説

日時 5月17日(日) 14:00～15:00

会場 企画展会場(観覧料必要)

講師 当館学芸員



図2 大里八幡神社関船



図3 水の子岩海底遺跡出土備前焼

# 豊北町立土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム

土井ヶ浜遺跡は山口県の西北端に位置しています。周辺は小高い丘と田園に囲まれたのどかな地域で、すぐ西側には穏やかで美しい響灘ひびなだが広がっています。ここは弥生時代の集団墓地としてその名を全国に知られた遺跡です。これまで約300体の人骨（土井ヶ浜弥生人）が出土しており、日本人のルーツや現代人の成り立ちを考えていく上で貴重な資料を提供してくれています。また、ゴホウラなど南西諸島（奄美や沖縄）特産の貝で作った装身具類が出土しており、当時の人々の交流の状況や精神生活を知る上で注目されています。

遺跡はその重要性から1962年に国指定史跡になり、1993年には「土井ヶ浜弥生パーク」が開設されました。ここにはいろいろな施設があり、「土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム」が中核施設となっています。

展示は人類学・考古学の成果をもとに構成されています。出土遺物、ジオラマ、ビデオ映像による解説、グラフィックパネル、イラストなどを駆使して、文字情報をできるだけ少なくし、見ただけでわかるよう工夫がなされています。また、自分の顔を縄文人、弥生人、未来人に変形させるコーナー（プリクラのようなもの）、貝による土器の模様づけ、貝輪の装着、自分が弥生人タイプか縄文人タイプかを判断してくれるコーナーなど、実際に体験して楽しめるよう趣向がこらされています。展示室のとなりの部屋は「弥生シアター」です。250インチ大画面で「遙かなる弥生—土井ヶ浜幻想—」というイメージビデオ

（約10分）が30分ごとに上映されています。別棟には、「土井ヶ浜ドーム」があります。これは“土井ヶ浜弥生人”の人骨の密度が高かった部分をドームでおおって造られた施設で、目玉的な存在です。1990年から公開されています。薄暗いドーム内には、約80体の埋葬された人骨が、出土した状況そのままにレプリカで再現されています。興味深いことに、人骨はほとんどすべて頭を南東にして、顔が北西（海の方）を向くように葬られています。

他にもパーク内には、軽食や地域の特産品を用意した休息所「ほねやすめ」、復元された竪穴式住居たてあな、赤米を栽培する水田などがあります。

遺跡に立ち、“土井ヶ浜弥生人”の骨と向き合い、彼らと同じように、青く澄んだ海のはるか西方を見つめると、遠い過去を身近に感じさせてくれます。皆さんにもいつかぜひ訪れていただきたい場所です。

（普及係 結城孝典）



図2 土井ヶ浜ドーム外観。



図1 博物館正面とゴホウラのモニュメント。

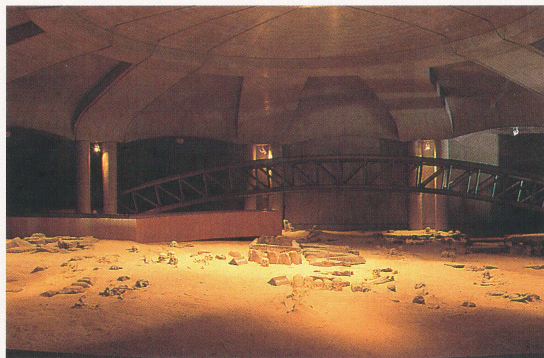


図3 土井ヶ浜ドーム内部の埋葬復元状況。

## Q 博物館に展示してある動物の剥製標本はどうやって集めるのですか？

**A** 博物館の展示室には鳥や獣の剥製標本がたくさん展示してあります（図1）。これらは展示を構成する上で、なくてはならないものなのですが、ご覧になった方から、「博物館だからといって貴重な生きものを展示のために採るなんて…」とか、「標本にするために殺されてかわいそう」といったご意見をいただくことがあります。しかし、これらは誤解によるものです。博物館の活動についてご理解いただくために、このことについてお話ししましょう。

とくに徳島県産の鳥獣について言えることですが、展示あるいは研究用の標本にするために、野生のものを捕獲することは、まったくといってよいほどありません。では、どうやって集めたかというと、ほとんどは野外で死亡していたものを、皆さんに見つけていただき、博物館へご寄贈いただいたものなのです。それらは不幸にも、不慮の事故や病気で死んだと思われるものがほとんどです。

例えば、小型の鳥ではガラス窓に衝突して死亡したものが多くみられます。渡り鳥のアカエリヒレアシシギのように、夜の窓明かりに誘われて、1度に10羽近くも落ちたことがあります。大型の鳥では、クマタカのように、翼を広げると端から端までが1.5 mもあるために、2本の高圧電線に翼端が同時に接触してしまい、一瞬にして感電死したものもあります（図2）。



図1 博物館常設展示室の「山地の自然と暮らし」のコーナーに展示された剥製類。

哺乳類で圧倒的に多いのは、交通事故によるものです。県内では毎年100人近くもの方が交通事故で亡くなるくらいですから、獣の死亡もいかに多いかは、容易に想像できるでしょう。興味深いのは、イタチのように比較的小型の獣の場合、目立った外傷がなく、骨格にもほとんど損傷が見られないことが多いことです。これは体重が軽いために、衝突したときに飛ばされやすいためと思われます。逆に、タヌキくらいの大きさになると、ぶつかったときの衝撃が大きいためか、損傷が目立ちます。そんなわけで、良好な標本はイタチで得られやすく、タヌキで得にくい傾向があります。

また、全般的に言えることですが、ワシ・タカ類やニホンカモシカのように、ある程度珍しい動物の方が、人目を引きやすいためか、どちらかというと集まりやすいのです（それでもせいぜい年に数個体にすぎませんが）。それに対し、ヒヨドリやカラス、ネズミ、コウモリ類などの小～中型の普通種が意外と集まりにくいのです。

今度博物館の展示をご覧になったら、鳥や獣たちが博物館へやってくるようになった理由に思いをはせていただければ幸いです。また、今後とも皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

（動物担当 佐藤陽一）



図2 クマタカ（徳島市八多町産）の剥製。高圧ケーブルに接触したため、両翼の付け根に穴が開いているが、見えないように翼を閉じたポーズにしている。

# 4月から6月までの博物館普及行事

あなたも参加してみませんか？

シリーズ	行事名	実施日	実施時間	対象(人数)
野外自然かんさつ	春の野山を歩こう	4月26日(日)	10:30~14:30	小学生から一般(30名)
	磯のいきもの	5月24日(日)	10:30~12:30	小学生から一般(70名)
	堆積構造と生痕化石のかんさつ	6月7日(日)	12:00~15:00	小学生から一般(30名)
土曜講座	※三角縁神獣鏡入門	4月11日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50名)
	※地層が示す海水準の変動	5月9日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50名)
	※田んぼの魚	6月13日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50名)
歴史散歩	徳島城を探る	4月12日(日)	10:00~12:00	小学生から一般(35名)
	古墳見学	5月17日(日)	9:00~16:00	小学生から一般(45名) 貸切バス利用
	城下町・寺町を歩こう	6月14日(日)	10:00~12:00	小学生から一般(35名)
企画展開連行事	※記念講演会「歴史における海と交流」	5月10日(日)	13:30~15:00	小学生から一般(300名)
	※展示解説	5月17日(日)	14:00~15:00	企画展「海はむすぶ一人とモノの交流史」 観覧料必要(50名)
移動博物館	※講座「阿讃山地の地層と化石」 「インターネットで自然をさぐる」	6月28日(日)	13:30~16:00	小学生から一般(100名) 会場:脇町福祉センター

●※は申し込み不要です。その他は往復はがきでお申し込みください。(各行事の1カ月前から10日前までに届くように)  
●くわしいことは博物館にお問い合わせください。

\*\*\*\*\*

## 部門展示(人文)一部展示替えしました

「文化財をまもるー博物館の保存科学」と題して、博物館の裏側でおこわれている資料保存について紹介します。資料保存のための施設や、そこで行われているさまざまな工夫を紹介するほか、文化財の科学的調査についても紹介します。

この機会に、ぜひとも博物館の意外な一面にふれてみてください。



期 間：1998年2月17日(火)~6月28日(日)  
場 所：徳島県立博物館2階  
常設展示室のうち部門展示室(人文)  
観覧料：通常の常設展観覧料  
一般200円、高校・大学生100円、  
小・中学生50円

## 博物館友の会に入会しませんか？

徳島県立博物館友の会では、1998年度の会員を募集しています。

この友の会は、博物館活動を通じて、広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的としています。

会員には、次のような特典があります。

- (1) 博物館常設展を無料で観覧できます。
- (2) 会報や博物館の催し物案内や博物館ニュースなどを受けられます。
- (3) 企画展図録等の出版物を割引購入できます。
- (4) ミュージアムショップで割引購入できます。
- (5) 友の会行事に参加できます。

会費(年額)は、次のとおりです。

個人会員 2,000円 家族会員3,000円  
賛助会員10,000円

詳しくは、徳島県立博物館友の会事務局(博物館事務室内)までお問い合わせください。

## 新着資料の一部(97年11月~98年2月)

考 古 大峰山上先達造立石碑(寄贈)  
植 物 植物標本(寄贈)  
地 学 世界各地のヒスイ(寄贈)

# 博物館ニュース No. 30

発行年月日 1998年3月25日

編集・発行 徳島県立博物館

〒770-8070徳島市八万町向寺山 ☎0886-68-3636